

2020 年度第 1 四半期決算説明 ネットカンファレンス質疑応答要旨

日時	2020 年 8 月 13 日 16:30～17:30
説明者	コーポレートコミュニケーション部 IR グループリーダー 小池 太郎
説明資料	2020 年度第 1 四半期決算の概要 及び 2020 年度業績予想の概要

Q&A

■モビリティセグメント

Q1. モビリティセグメントの 20 年 1Q（4-6 月）の状況及び 2Q（7-9 月）以降の状況について説明して欲しい。

A1. 1Q については、PP コンパウンドは対前年比で大幅な数量減となっており、中国を除き各地域において減販となりました。その他エラストマー、機能性コンパウンドは減販、ソリューション事業についても受注減となりました。2Q 以降は、コロナ影響緩和により PP コンパウンド、機能性コンパウンドを中心に増販を見込んでいます。ICT 向けは、1Q の販売は堅調に推移、2Q 以降も同様に推移すると見込んでいます。

Q2. 1Q（4-6 月）から 2Q（7-9 月）へのモビリティセグメントのコア営業利益の動きについて説明して欲しい。

A2. モビリティセグメントは、コロナ影響緩和による増販により増益を見込んでいます。

■ヘルスケアセグメント

Q3. ヘルスケアの 1Q（4-6 月）販売状況及び 2Q（7-9 月）の動向について説明して欲しい。

A3. ビジョンケア及び歯科材料については、コロナの影響を受け減販となりました。不織布については、需要増加に伴い増販となりました。2Q 以降は、ビジョンケア及び歯科材料についても回復を見込んでいます。

Q4. 1Q（4-6 月）から 2Q（7-9 月）へのヘルスケアセグメントのコア営業利益の動きについて説明して欲しい。

A4. ヘルスケアセグメントは、歯科材料の販売回復及び不織布の需要増加に伴う増販により増益を見込んでいます。

Q5. ヘルスケアの前回発表からの上方修正について説明してほしい。

A5. 主には不織布の販売数量増による増益を見込んでいます。

Q6. ヘルスケアは下期での対前年増益となる理由は何か。

A6. 不織布の対前年からの増販、及びビジョンケア、歯科材料のコロナ影響からの回復を見込んでいます。

■フード&パッケージングセグメント

Q7. 1Q（4-6 月）から 2Q（7-9 月）へのフード&パッケージングのコア営業利益の動きについて説明して欲しい。

A7. フード&パッケージングセグメントは、フィルム・シートで 1Q のイクロス顧客在庫積上げによる需要増の反動、及び固定費増加を見込み、減益を見込んでいます。

Q8. 2Q（7-9 月）の農薬の販売状況を教えて欲しい。

A8. 海外需要期となり堅調な販売を見込んでいます。

■基盤素材セグメント

Q9. 1Q（4-6 月）から 2Q（7-9 月）への基盤素材のコア営業利益の動きについて定修要因も含め説明して欲しい。

A9. 基盤素材セグメントは、AC 市況下落や固定費増加の影響はありますが、1Q における在庫評価損及び販売価格フォーミュラの期ずれを合わせた影響の解消により増益を見込んでいます。定修影響については、1Q から 2Q にかけてクラッカーは定修となりますが、両 Q の定修日数はほぼ同じなため損益への影響は軽微です。

Q10. 基盤素材は下期もコア営業損失となる背景について説明して欲しい。

A10. コロナ影響による需要減が一定程度継続に加え、19年度末からの上期原料価格急落により、期首の高い在庫評価が薄まりきらず下期にも高い在庫評価が残っており▲20億程度の在庫評価損を見込んでいます。

Q11. 基盤素材セグメントの稼働率の前提はどうなっているか。

A11. クラッカー、ポリオレフィンの1Q(4-6月)はコロナ影響により稼働調整を実施しましたが、2Q(7-9月)以降は改善を見込んでいます。フェノールはフル稼働となっています。

Q12. 基盤素材セグメントの主要製品市況についての前提はどうなっているか。

A12. オレフィンについては、1Q(4-6月)は中国需要回復を背景にC2市況は上昇、C4については自動車生産減速により低迷が継続しています。2Q(7-9月)以降のC2は供給増加を見込み下落、C4は引続き低調を見込んでいます。フェノールについては、1Q(4-6月)は中国の需要が徐々に回復した一方で、アジア・中東での定修が長期化したことにより供給量が減少したため市況は改善しました。2Q(7-9月)以降は定修明け、新プラントの稼働等により市況は下落を見込んでいます。ACについては、1Q(4-6月)はコロナ影響によりIPA特需及びフェノール定修長期化により市況が大幅に改善しました。2Q(7-9月)以降はIPA向けの特需沈静化及び定修による供給減の解消により市況は下落を見込んでいます。

■ 全社

Q13. 在庫評価損の影響について説明して欲しい。

A13. 基盤素材を中心に、在庫評価差▲200億円程度と販売価格フォーミュラの期ずれを合わせた損益影響は20年度で▲150億円程度の影響を見込んでいます。

Q14. 棚卸資産の減少理由と損益に与える影響を説明して欲しい。

A14. 基盤素材を中心に、原料価格下落及び在庫抑制により棚卸資産は減少しました。それにより在庫固定費は増加しました。

Q15. 配当予想の考え方について説明して欲しい。

A15. 株主還元の強化を経営上の重要課題ととらえており、安定配当を基本方針としております。対前年減益ではあるもののコロナ影響による一過性と考えており、前期同額の配当予想としました。

Q16. 前回発表から営業利益の増額以上に当期利益の増額となる理由は何か。

A16. 関係会社の損益変動により非支配株主持分が変動しました。

Q17. 現預金が増加する計画となっている背景について説明して欲しい。

A17. コロナウイルスの影響に伴う、業績のダウンサイドリスクに備えた手元流動性の確保です。

以上